花卉研究室のいまについて

花卉園芸学研究室修士課程１年
久保田　一　輝

私が本稿を執筆しているのは、梅雨も明け、暑さも増してきた８月の中旬です。史上最高の猛暑になると予想されている今年の夏を、どう乗り切ろうかと頭を悩ませながら、日々、植物の管理を行っています。私は、他大学から千葉大学の花卉園芸学研究室を希望し、入学しました。この研究室に入ってから、前の大学との違いに驚き、何もかもが新鮮に感じられました。今では、そんな研究室生活にもすっかり慣れた２年目の夏です。10月から研究室に配属される３年生も決まり、新たな風が吹き込まれようとしている花卉研の今について、紹介します。

現在、花卉園芸学研究グループは、松戸と柏の葉に別れ、学生は松戸に９人、柏の葉に６人配属されています。10月から、３年生が８人（松戸に４人、柏の葉に４人）増え、さらに賑やかになることが予想されます。松戸の花卉研では、主にダリア、トルコギキョウ、ラン、フロックスの研究を行なっています。私は、ダリアの小花の形態形成に関わる遺伝子の研究をしており、さまざまな花形をもつダリアに囲まれて研究を行なっています。ダリアは一般的に、暑さに弱い植物なので、連日の猛暑で息も絶え絶えです。よって、夏に切り戻しを行ない、株を若返らせ、秋に再び綺麗な花を咲かせられるよう、日々の管理に気を配っています。また、ダリアのうどんこ病や、ランの共生菌、花色や交配育種といったテーマがあり、花に関する研究が多岐にわたり行なわれています。個々の学生がそれぞれ異なる研究テーマを持っているため、学生同士のディスカッションを通して、自然と様々な知識が身につきます。さらに、学生同士で議論することにより、自分の研究について、複数の角度から捉え、考えることができるので、非常に良い環境だと思います。

例年のように、この時期の共同作業は圃場の草刈りがメインです。炎天下での草刈りは体力の消耗が激しく、汗だくになりながら作業をしています。作業は半日かけて行なわれるため、熱中症に気を付けつつ、休憩をはさみながら行なわれます。今年から、圃場の一角にダリア畑を作り、様々な切花用品種のダリアを植えて、ダリアの切花検定を行なっています。ダリア畑の開墾から始まり、球根の植え付け、脇芽つみなどの作業を行ないました。夏場のダリアの管理や、畑の除草は大変でしたが、綺麗に咲きそろったダリアは圧巻です。収穫した切花を、学生や職員に配ったりもするのですが、喜んだ様子で受け取ってくれるので、こちらも嬉しくなります。

これから、新３年生の歓迎会、戸定祭、種子取り、修論・卒論発表会、追いコンなど様々なイベントがあります。柏の葉の学生との交流は、主にこういった行事を中心に行なわれています。今年は、夏の１大イベントであるサマーセミナーが開催されなかったので、柏の葉の学生と積極的に関わる機会が少し減り、寂しく思いました。松戸の研究室内では、これらのイベント以外にも、４年生の大学院試験のお疲れ会や、誕生日会など何かにつけて飲み会をすることが多く、お互いに協力し合う体制ができています。一方、柏の葉の学生とは、大きなイベント時以外には、個人的な接点が非常に少ないので、もう少し関わり合う機会が増えたらといいな、と思います。

千葉大学に入学して１年が経ちましたが、園芸学部には他大学にはない、独特の気風があり、そこがこの大学の大きな魅力であると私は思います。静かでいて聡明で、落ち着きのある学生が多く、そしてそのような気質が今も昔も変わらずに、伝統的に受け継がれていることを強く感じました。大学によって、学生の性質がここまで違うことに驚きましたし、千葉大学の歴史ある雰囲気や、園芸学部の身近に植物が多いという環境がこのような精神を育むのではないかと思いました。私は、この大学の花卉研究室に来られて良かったと心から思いますし、卒業までの時間を悔いなく、さらに良くしていきたいと思います。